

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2796400105		
法人名	株式会社 愛のケア工房はるか		
事業所名	グループホームみんなのわが家はるか		
所在地	大阪府堺市南区晴美台3丁9番5号		
自己評価作成日	平成 28年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 28年 3月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 2月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じることができる自然に囲まれた木の香りに包まれた温もりのあるわが家。食事の準備や盛り付けなど簡単な調理を個々に応じた力を発揮できる場や、リハビリを活かした活動を通し張りのある生活が送れるよう援助させて頂いています。また、健康、体力維持、気分転換も兼ね、朝の体操や散歩の時間を毎日設けています。行事レクカレンダーを作成し日々、飽きることのない外出行事やレクリエーションに取り組んでいます。個別での外出にも力を入れ、マンツーマンでの買い物、行楽見学や喫茶店などゆったりとした時間を設けたり、アクティビティアウティングと称した1日その方の為に過ごせる活動の機会を作っています。健康面には気を付け毎朝と入浴前には必ずバイタルチェックを行っています。その他、何か気になることがあれば連携看護師とも密に連絡を取り合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険制度開始に伴い在宅介護事業を開始した法人が、在宅での生活が難しくなってきた利用者が住み慣れた地域を離れることなく、第二の我が家として過ごせる施設をとの要望により平成25年12月にグループホームを開設して3年目を迎えます。利用者がいきいきと自分らしく笑顔あふれる毎日を送れることで家族の安心に繋がるようにとの思いを大事にしています。豊かな自然環境の中で季節を感じられる場所であり、閑静な住宅地の中で穏やかな生活ができる環境と、木の温もりと壁等の材質にこだわって造られたホームです。管理者は利用者の尊厳を支えるケアに努め、職員が話しやすい雰囲気作りと何でも相談できる関係の構築をしています。職員は利用者との関わりを大事にする中で、職員の意向ではなく利用者の喜びになるような生活と、職員自身が入居したいと思えるホームにしたいと日々向上心を持ちながら支援を行っています。管理者の作ったホームでの一年の暮らしの場面のDVDを観ながら利用者同士が仲良く談笑する、和やかで利用者の笑顔が多く見られるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念、全社課題、介護理念、年度課題を毎日の朝礼で唱和するとともに、月1回のフロア会議にて理念や年度課題達成に向けて月間目標を考え実践している。毎月 GH 会議で目標の振り返りを行っている。	法人理念は『家族の和を基とし、常に互いを尊敬・感謝する心を持ち、共に学び、共に支え、共に歩む』を大きな理念として、5項目の個別目標と共にわが家介護理念として掲げています。平成28年の年度目標は『尊厳を支えるケア』を部門課題としています。月間目標として、2月は『初心を忘れず業務を行う』を基本に3項目の目標を設定して掲げています。理念は上司が決めて職員が従うのみにならないように、職員がアンケートで意見を出し、多数決で決めています。理念は玄関とスタッフルームに掲示しており、職員は毎日の朝礼、夕礼で唱和して周知を図っています。毎月の会議で目標の振り返りをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	他のグループホームのメンバーと共に近所の小学校へ訪問し、寸劇などを通して認知症について学ぶ機会を持ってもらうよう啓発活動をおこなっている。また、自治会に加入し、地域の祭りや敬老会などのイベント、避難訓練にも参加すると共に、ボランティアを呼んで催しをする際には近隣の方にも参加を呼び掛けている。	自治会にはホームとして加入しているため自治会の行事は回覧版で知らせてもらえます。地域活動が盛んで、バス通りや公園の清掃、敬老会や福祉バザー、自治会館で毎月開催されている地域のサロンや喫茶に参加しています。小学校での認知症サポーター養成や寸劇を通じての認知症の啓発活動も行っています。折り紙ボランティアの訪問があり、季節の折り紙を利用者が作って居間や居室の壁に飾っています。地域の掲示板にホームで開催している「はるかふえ」(認知症カフェ)の案内が掲示され、前自治会長や民生委員に来訪してもらえました。自治会で行われる防災訓練の告知もあり、参加の予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	隔月第4土曜日にコミュニティはるかふえ(認知症カフェ)を実施し、利用者とその家族、地域住民との交流の場を通じて認知症に対する理解を深めてもらっている。また、事業所にAEDを設置し、非常時に活用して頂けるように近隣住宅に周知し自治会でも告知していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域包括支援センター職員、地域の自治会長、自治会員、民生委員、グループホームに知見を有するもの、代表者、代表取締役、管理者、計画作成担当で会議を構成し、2カ月毎に行っている。会議でいただいた意見は回覧で共有し、必要な改善策などは都度、話し合っている。	運営推進会議は、規定を詳細に作成して、自治会長、前自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、大学准教授、家族の参加により2ヶ月に1回開催しています。会議ではホームの活動、職員の動向、事故・ヒヤリハットの報告、啓発活動や職員研修について報告しています。参加者からは地域行事の案内や意見を得て、議事録に詳細に記録しています。現在開催が平日、日中の固定により家族の参加に限られる為、今後は年に1回は家族の参加が可能な日程で開催の予定です。また、毎日の散歩に地域の方の協力を得られるよう呼びかける予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	確認事項や報告あれば必要に応じてその都度電話にて連絡相談をおこない日頃から協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市の担当課に事故報告をしています。区役所からは認定調査の訪問や写真展の案内がありました。区役所にホームのパンフレットを置かせてもらったり、区役所に行った際にキャンドルナイトのイベントのチラシを得て利用者と参加もしました。年に一度の堺市の事業所連絡会や区のグループホーム連絡会に2ヶ月に一度参加しています。区のグループホーム連絡会の事業所対抗の風船バレー大会にも利用者と参加しました。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関わる外部研修受講、内部研修の実施やマニュアルを作成しスタッフ間に周知徹底している。また重要事項説明書にも記述がある。出来る限り見守りで対応している。玄関は施錠せず開放的にしている。ドアアラームのみONにしている。	玄関ドアは常に開錠しています。ドアアラームを設置して利用者の安全に配慮しています。身体拘束のマニュアルを整備しており、身体拘束、虐待防止の研修を行い職員に身体拘束について周知を図っています。職員はスピーチロックに配慮してケアを行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修受講、内部研修を通じて虐待防止に務めている。また虐待防止マニュアルを作成しスタッフ間に周知徹底している。管理者は、ホーム内で虐待の見過ごさないかを日々確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	重要事項説明書に成年後見制度の記述があり入所時に説明している。また相談できる体制にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に基づき本人もしくは家族ともに説明を行っている。各2部作成し、双方が保有している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の来所時やカンファレンス、運営推進会議等で、家族からの要件や要望、意見を聞き必ず管理者へ伝えている。重要事項説明書に相談先を明記し説明している。また玄関にも意見箱を設置している。	利用者家族とは普段からコミュニケーションを深め、いつでも意見や要望が聞けるようにしています。家族がイベントに参加の際にアンケートを実施して、アンケートの中で意見を記入してもらっています。家族からの要望で家族会を発足させ、年に2回家族会を開催して家族間の交流ができるようになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を実施しできる限り全スタッフが参加できるようにしている。またケアの振り返りシートを活用したり朝夕の申し送り時に意見を聴く機会を設けている。その都度の対応方法についても状況に応じて検討している。また、管理者とは業務の間にも話ができるようにしたり個別に面接する機会を設けて意見を聴くようにしている。	職員との個人面談を年に2回実施しています。管理者は日常的に職員と話す機会を設けて、職員の意見を聞くようにしています。ケアの振り返りシートや記録の中に職員の気付きを記入して、朝夕の申し送り時に意見を出しています。年間行事やイベントなども職員参加の委員会の中で決めるようにしています。職員から下駄箱の利用者の靴の場所が固定ではない為分かりにくく毎回探す必要があるとの意見が上がり、下駄箱の棚の靴を置くことで隠れる場所に名前のシールを貼り業務効率の改善に繋がった事例があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の特性を活かせる仕事をまかせたり、チャレンジシートを作成し目標をもって取り組めるようにしている。 全職員が閲覧できるように事務所に就業規則を置いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の要望や勤務年数などに応じ施設内研修を行うとともに施設外研修の参加も進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市南区及び堺市全体のグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームとの情報意見交換や研修などをおこなっている。また連絡会を通じた集まりにも参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に直接本人と会って困っていることや不安がないか確認した上でサービスを提供している。状況に応じて病院や施設にも訪問している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と会って困っていることや不安がないか確認した上でサービスを提供している。状況に応じて病院や施設にも訪問している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学をしていただいた際に相談に応じている。また、入居が決まった場合には、本人とその家族がその時に求めておられるサービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として、調理・洗濯・掃除といった家事を一緒に行い、利用者同士や職員と助け合う関係を築いている。また、利用者の得意分野やできることを活かし、畑作業や裁縫、毎朝ポストから新聞を取ってくる等それぞれに役割を持っていただけるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に利用者の状態報告を行い、できるだけ頻繁に家族には来てもらえるように連絡したり支援している。また、行事や運営推進会議への参加を呼び掛けている。家族会やセレモニー、夏祭りなど大きなイベントや外出行事などにも参加してもらえるように声を掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域に開かれたホームとして玄関は施錠せず日中はいつでも入れるようにしている。できる限り頻繁に面会に来てもらえるように支援している。馴染みの美容院や行楽施設などにも家族付き添いで行ってもらっている。</p>	<p>家族の来訪が多くあり、ホーム、職員は快く迎えています。入居前からのかかりつけ医への受診や馴染みの美容室を利用する利用者もいます。2～3ヶ月に1回、家族と観劇に行ったり、家族が休日に定期的にホームに訪問する利用者や自宅に外泊をする利用者もおり、馴染みの関係の継続ができています。ホーム内でも仲良しの利用者が女子会として居室に集まり話をして親交を深めています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の相性を考慮し、テーブル席やソファの座席など配慮している。また少人数の外出時も相性のいい利用者同士になるように工夫している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院をした場合でも面会に行き状態把握に努めている。今後の対応を連携者、家族と相談できるようにしている。退所後もセレモニーや夏祭りなどの行事に参加呼び掛けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や家族の希望を常に聞くように心がけている。面会時に家族に相談できる限り本人本位に沿えるように検討している。	利用者の意向や希望は入居の際に確認してアセスメントシートに記入しています。利用者が希望を話すことが少なく、思いは日々の関わりの中で職員が聞き取り、把握した思いや要望について、パソコンのケア記録システムに入力して、職員間で共有しています。パソコンの掲示板で職員に回覧でき、利用者の新しい情報を発見できるツールになっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報提供や本人からの情報をもとに利用者一人ひとりの生活歴や暮らし方の把握をすると共に、使い慣れた家具や飾りを持ち込んでもらい、家庭環境に近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント時に把握できるよう日頃より、調理や掃除等の家事作業や散歩、畑作業、近くのスーパーへの等を職員と共に行い、身体状態や能力の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成に当たっては、利用者やご家族の意見や要望を聴きケアプランに反映するよう努めている。また、介護計画チェックを毎日行い、毎月モニタリングを実施している。</p>	<p>介護計画書の見直しは基本的に6ヶ月に1回行っています。介護計画チェックによる分析を定期的に行い、利用者の担当職員が行ったモニタリングを計画作成担当者に報告して、家族参加のカンファレンスで意見を聞き取り、計画書を更新しています。更新した計画書は利用者家族がホーム来訪時に説明の上同意を得ています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画に沿った記録を日中、夜間帯と細かく記録している。気になることは朝夕の申し送りやケアの振り返りシート、GH 会議で職員間共有するようにしている。入院時や退所時は施設支援経過に記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>画一的なケアにならないようにその時々ニーズに対応している。</p> <p>アクティビティアウティングを取り入れ家族の希望する場所への個別外出にも取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園には毎日散歩に出かけ季節感を味わえるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関のクリニックが月に2回の訪問診療を行っている。 また、利用者やご家族の希望に応じて訪問歯科も受けれるように支援している。 入所前にかかりつけ医の選択、外部での継続する場合はホームでの様子を伝えている。	かかりつけ医については、利用者家族の意向による選択としています。 入居前からのかかりつけ医への受診の際には様子を伝えています。24時間オンコール体制の取れる協力医療機関から月に2回の往診があり、希望により訪問歯科に治療、義歯の調整を受ける利用者もいます。同法人の訪問看護師による健康管理も受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約を行っており、定期的に看護師の訪問があり健康管理を受けている。また利用者の状態を報告・相談したり、緊急時には連絡し指示を仰いでいる。状態に応じて往診や訪問看護を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、介護サマリーを作成し医療機関への情報提供に努めると共に管理者が利用者と面会し、家族、医療機関との連携し、情報交換や相談に努めている。定期的に足を運ぶことで病状の把握を行い退院後の対応を職員間で検討し受け入れ体制を十分に備えられるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護について説明している。状態に応じてその都度、相談できるように努めている。	開設以来看取りの事例は無い状況です。重度化に対する指針を作成して、家族には入居時に説明を行っています。昨年重度化や終末期対応の研修を行っており、今年度もターミナルケアの研修を実施の予定です。ホームでの看取りについては今後の課題と考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成している。 年一回 AED、胸骨圧迫の応急研修を実施している。 事故防止マニュアルを作成したり、GH会議で定期的にもリスクシュミレーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員、利用者参加の消防訓練を年に2回実施している。また、地域の防災訓練にも参加し、地域の協力体制を築けるよう努めている。 災害用として2日分程度の水と非常食を備蓄している。	昨年避難訓練として、消防署立ち合いによる避難訓練と、夜間想定自主訓練を実施して運営推進会議で報告しています。地域の小学校で行われている合同防災訓練に参加しており、今年も参加の予定ですが、ホームでの避難訓練に近隣地域の方の参加協力が得られていない状況です。備蓄の準備はしていますが、備蓄の賞味期限の管理や量について確認が必要な状況です。	特に夜間における火災・災害の際に、地域住民の協力により避難した利用者の見守りの支援を得られるようにするなど相互協力関係構築の為に、自治会や運営推進会議を通じて地域の人に避難訓練への参加を呼びかけられてはいかがでしょうか。また、備蓄の賞味期限をわかりやすく明記する等して管理をされてはいかがでしょうか。
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行ったり、利用者一人ひとりの尊厳を大切に言葉掛けや対応を日々の業務の中でも常に意識するようこころ掛けている。 ケアの振り返りシートを活用し意識するようになっている。	職員にはプライバシー保護、接遇の研修を実施して、毎月のフロア会議の中で尊厳を損なわないケアを大事にするように説明しています。日常的にケアの振り返りシートを活用して意識付けを行っています。同性介助での入浴や、トイレ誘導の際の声掛けなどプライバシーの配慮に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ルーティン業務を優先させず、日常よりコミュニケーションを多く取り、自己選択・自己決定ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーティン業務を優先させず自己決定できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を受けたり、可能な限り衣類の選択を支援している。 起床時や入浴後に化粧水や乳液を塗ってもらうなど支援している。 眉をかくなど化粧をしてもらえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に応じて野菜を切ったり盛り付けたり、一緒に準備し後片付けも一緒に行っている。 月に一回は料理レクを実践し、買い出しから一緒に行い、季節感のある食事内容を取り入れている。	メニューと食材は、業者から届き、3食ともホームで作っています。食事の下ごしらえ、準備、盛り付け、後片付け等、利用者のできることはスタッフと一緒にしています。キッチンとリビングは隣接し、キッチンから食材を切る音や匂いが漂い、リビングにいる利用者の五感を刺激しています。職員は、利用者を見守りながら、同じ物を一緒に食べています。利用者と共に菜園で育てた野菜も、食材として活用し、夏には、夏野菜カレーを作りました。月1回の料理レクは買いだしから利用者と一緒にいき、夏はそうめん、冬は鍋など季節感のあるメニューを楽しんでいます。週に1回は利用者で作るおやつレクをしています。外食や喫茶店に行くこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事量、水分量を記録し必要に応じてとろみや食材をカットし食べやすいように工夫している。 必要に応じて医師と連携し高カロリージュースを処方してもらうなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて毎食後の口腔ケアを実施している。夜間帯のみ義歯洗浄を毎日行っている。 希望者には訪問歯科による口腔ケアを定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を優先し機能保持に努めている。夜間でも可能な限りトイレに誘導している。	排泄については少しの見守りで自立が可能な利用者が多く、可能な限りトイレでの排泄ができるように支援しています。職員は排泄チェック表に手書きで記入した記録をパソコンに入力して記録の保存と排泄パターンの把握を共有しています。食事の後や利用者の様子からトイレ誘導のタイミングを計り、さりげない声掛けに配慮して排泄介助を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録に個人の詳細を記録し必要に応じて牛乳やヨーグルトの提供、下剤や水分の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況確認しながら週に3回の入浴を基本としているが、希望者にはできる限り毎日入浴ができるよう努めている。入浴拒否のあるご利用者には、適切な声掛け等により入浴してもらい、身体保清に係る支援を行っている。	入浴前にはバイタルチェックを実施し、健康管理に配慮して、週3回の入浴を基本としています。希望があれば毎日の入浴も可能です。入浴を好まない利用者には、声かけを工夫し、気持ち良く入浴してもらうようにしています。柚子湯にするとときもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロア、各居室に室温湿度計を置いて空調により温度湿度管理を行っている。また、体調に合わせて居室で昼寝をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明をファイリングしスタッフ間で共有している。また薬は一包化しミスのないように二重チェックとしている。また薬局にも相談できる体制にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>その方に合った役割をできるだけ持ってもらい、毎日の散歩や体操に参加促している。また行事レクカレンダーを作成し、楽しみのある生活を送れるように努めている。月に1回は買い物などの外出を出来るようにしている。またアクティビティアウティングを取り入れて馴染みの場所や嗜好品を食べに行くなどの楽しめる環境を支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日の日課としている。家族といつでも外出・外泊できるように急な場合でも対応している。また、定期的に外出行事を企画し、花見・紅葉・みかん狩り・初詣といった季節に応じた外出の他にドライブやプラネタリウム観賞等にも出かけている。アクティビティアウティングを取り入れて本人・家族の希望に沿うようにしている。	ホームのすぐ裏が公園で、歩道は広く、ほぼ全員が毎朝散歩をしています。家族と定期的に自宅・通院・食事・買い物等外出する利用者もいます。ホームでは、季節毎に外出を計画し、初詣・プラネタリウム・梅・桜・花菖蒲等の花見、紅葉狩りに出かけています。利用者はイチゴ狩りを楽しみにしています。近くのスーパーへの買い物や、グループホーム対抗の風船バレー大会にも出かけています。外出の思い出は、半年分を音楽付のDVDにまとめて、ホームのテレビで鑑賞し、利用者と共に思い出も楽しんでいます。特にアクティビティアウティングを取り入れて本人・家族の希望に沿うように個別の外出支援をして、さをり織・外食・ドライブ・買い物等楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1万円までを預かり金とし最低でも月に1回は買い物の支援をしている。可能な方は財布を手渡し会計もしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者の意向で、電話がしたい人には、自由にして頂いている。 自室に携帯電話を設置されている方もおられる。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを実施している。テーブルやカウンターの上では最小限の物のみを置いている。時々花も生けている。 行事の写真や予定を貼りだす事で楽しみのある空間づくりを実践している。	木のぬくもりにこだわって建てられた共有空間は、高い天井に大きな窓、吹き抜け部分の天窓からの光が1階まで届いて明るく、開放感があります。壁も漆喰を使い、自然の明るさがあります。温度・湿度計、加湿器を置いて、空調にも配慮しています。大きなソファを配置し、利用者はテレビを見たり、談笑したり、ゆっくり寛いでいます。リビング窓からは裏の公園が見え四季を感じることができ、室内では折り紙で作ったお雛様やご近所の方から頂いたひな人形が飾られ季節を感じることができます。壁や廊下には、癒しの言葉が書かれた絵が貼ってあり、心が和みます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブル、ソファの配置に工夫し、相性の良い人との席にも配慮している。</p> <p>個々のペースに合わせ、心地良い場所(バルコニーや和室なども)で過ごして頂ける様努めている。また思いを伝えられない人に対しては、表情等で把握し、居室にて、寛いで頂けるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具の持ち込みやテレビを置くなど家族や本人の希望に沿うように実施している。</p>	<p>居室入口には、利用者が自分で選んだ手作り和紙のライト飾りがあり、居室の大きな窓からは公園の木々や散歩の様子が見え、明るく開放感があります。居室内は、エアコンで調整し、快適な温度を保っています。自宅から机、椅子、タンス、洋服かけ、テレビ、鏡台等、使い慣れた家具や電気カーペット、加湿器を持ち込み、快適に過ごせるようになっています。又、ひな人形、家族写真や自分の作品のぬり絵や折り紙等を飾りその人らしく安心できる居場所となっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段を自由に使用できるようにしている。廊下などの共有スペースには手すりが設置してあり伝って歩けるようにしてある。		